

令和5年度第2回健康長寿計画推進検討会議 議事概要

1 日時

令和5年9月12日（火） 18時30分～19時30分

2 場所

埼玉会館 6B会議室及びオンライン参加

3 出席者

〈委員〉（敬称略・順不同）

大木いずみ（公立大学法人埼玉県立大学 教授）（委員長）埼玉会館会場

緒方 裕光（女子栄養大学 教授）オンライン

奥山 秀（埼玉県国民健康保険団体連合会 常務理事）オンライン

加藤 英明（公募委員）オンライン

小宮山和正（一般社団法人埼玉県歯科医師会 理事）オンライン

澤田 亨（早稲田大学スポーツ科学学術院 教授）オンライン

繁野 北斗（埼玉労働局労働基準部 健康安全課長）オンライン

関野美知子（埼玉県食生活改善推進員団体連絡協議会 理事）オンライン

登坂 英明（一般社団法人埼玉県医師会 常任理事）（副委員長）オンライン

横山 徹爾（国立保健医療科学院 生涯健康研究部長）オンライン

〈事務局：健康長寿課〉

課長 加藤絵里子、副課長 矢内孝司、主幹 荒井今日子、主査 飯田浩美、

主事 守菜々子、技師 新井里美、主査 石川清子、主幹 鈴木安徳

関係課：疾病対策課、衛生研究所、人材活躍支援課、精神保健福祉センター

4 議事

(1) 第8次埼玉県地域保健医療計画について

- 事務局から資料説明（資料1）
- 質疑、意見等

特になし。

(2) 埼玉県健康長寿計画（第4次）素案の現状と課題について

- 事務局から資料説明（資料2）
- 質疑、意見等

特になし。

(3) 埼玉県健康長寿計画（第4次）素案の指標について

- 事務局から資料説明（資料3、参考資料1、参考資料2）
- 質疑、意見等

○登坂委員

指標の望まない受動喫煙の機会を有する者の割合について、飲食店から家庭・職場と広げたことは良いが、目標が数値で出ていない。定量化できるような数値を指標にすることを考えられないか。指標が望まない受動喫煙であるなら、目標は0%だと思う。埼玉県健康長寿計画（第4次）の策定期間が、健康日本21の半分であるという、目標を曖昧にするのではなく、定量化した数値として0%とした方がよいのではないか。

○事務局

目標は、健康日本21（第三次）の目標と表現を合わせた。この目標の検討にあたり、健康日本21（第三次）の「望まない受動喫煙のない社会の実現」がどのような社会か考えた。「望まない受動喫煙のない社会の実現」は、受動喫煙の機会が0%の社会ではないかと考えている。

望まない受動喫煙を防止することは重要だと考えている。目標値を健康日本21（第三次）と合わせるか、数値として0%とするか、検討する。

○大木委員長

登坂委員と同じく、目標値は明確に数値で示した方が良い。受動喫煙が健康に影響を与えることは、科学的根拠が示されている。そのような点から、目標値を示した方が良いと考える。

○奥山委員

指標の果物の摂取量の改善について、一見良いことに思うが、果物には果糖等の糖質が含まれており、たくさん食べれば良いというものではなく、糖質の過剰摂取につながるのではないかと。摂取量の改善も必要ではあるが、過剰摂取の注意について、一言あった方が良いのではないかと。

○事務局

健康日本21（第三次）では、高血圧、肥満、2型糖尿病の発症のリスクとの関連について、200g/日までの摂取はリスクが減少するとされている。過剰摂取の課題はあるので、200g/日ということを念頭に事業を進める。

○登坂委員

果物の定義が難しいと思う。例えば、食品交換表では、アボカドは植物油とされている。野菜と果物の分類も難しい。

果糖の摂取量が過剰になることは非常に良くない。野菜と思っていたら、タンパク質や油だったということもある。どのような野菜、果物として摂取が望ましいか形をとられた方が良い。

○事務局

登坂委員のご指摘のとおり、野菜と果物の分類は難しい。素案の中に文言をいれるか、取組の中で、野菜等の定義を伝えていくか検討して、計画や取組に反映させていきたい。

●埼玉県健康長寿計画（第4次）素案、指標案について委員の承認を得た。

5 その他

埼玉県健康長寿計画（第4次）素案、指標案について

●事務局から資料説明

埼玉県健康長寿計画（第4次）素案、指標案について承認を得たが、詳細な表現等でお気づきの点がある場合、会議終了後別途意見を頂戴したい。

以上